

# 「平成30年度『学びのスタンダード』推進事業」の推進地域の取組

パイロット校名	会津若松市立第一中学校、会津若松市立城北小学校
推進協力校名	会津若松市立行仁小学校

## 子どもたちの生きる力の育成のために

会津若松市立第一中学校区の児童・生徒一人一人の生きてはたらく「確かな学力」の育成のため、会津若松市立城北小学校と会津若松市立行仁小学校、会津若松市立第一中学校で連携・協力して「学びのスタンダード」推進事業に取り組んでまいりました。共通実践事項として、「学び合い、伝え合う」をテーマとして、子どもたちに「思考力・判断力・表現力」を育成し、ひいては「確かな学力」の育成を目指してまいりました。

### 1 パイロット校の取組内容

(1) 会津若松市立城北小学校（パイロット校Ⅱ）

① 学級担任制を基盤とした「教科担任制」

「学びのスタンダード」推進教師が5学年全学級の算数科でTT指導を行い、個別指導や担任と連携を図った指導を展開しました。



グループで伝え合いをしているところ（小学校）

	5年1組	5年2組	5年3組
T1	「学びのスタンダード」推進教師		
T2	1組担任	2組担任	3組担任

上の表のように、推進教師がT1を努めることを基本としながら、学級の実態や単元によって学習の形態やTTでの役割を変えながら授業を行ってきた。（上写真）

(2) 会津若松市立第一中学校（パイロット校Ⅰ）

① 現職教育の充実

- ・ 「授業スタンダード」の「ペアやグループでの話し合い」と「まとめ・振り返り」を重点化した授業を実践した。（次頁右上写真参照）
- ・ リーフレットにある「子どもの姿」が実現できるような指導を工夫した。

② 「タテ持ち」 数学科の例

	1-1	1-2	1-3	1-4	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
A先生	○	○			○	○									
B先生			○	○											○
C先生							○	○					○	○	
D先生									○	○	○	○			

授業の進度や授業内容の確認、テスト作成の話し合い、公開授業の指導案検討等を実

践できた。

- ③ チェックシートの実施  
教員全員がチェックシートで自己評価し、  
教員の意識改革を図った。
- ④ 振り返りの実施  
授業の終わりに本時の学習内容を振り返った。  
自己評価や適用問題を実施した。また、  
帰りの学活には、本日の授業全ての振り返り  
を行い、家庭学習に生かせるようにした。



英語の授業  
「即興」で会話をしている場面  
(中学校)

## 2 推進協力校の取組内容

### (1) パイロット校との連携 (右写真)

- ① パイロット校との協力による授業実践
  - ・ 年間3回の推進協力校における授業研究会  
(会津若松市立第一中学校区内の小・中学校  
教員が参加して実施)
  - ・ パイロット校Ⅰ、Ⅱでの授業参観
- ② 三校共通実践事項である「話し方・聴き方」  
(レベル1～3)の校内での取組



フリートークによる学び合い  
をしている場面 (小学校)

### (2) 協力校としての取組

- ① 授業スタンダードを生かした授業実践
  - ・ 同一単元における学年での授業検証
  - ・ 学年・ブロックの機能を生かした指導案検討
  - ・ ペア・フリートーク等の活動形態に応じたコーディネートによる授業力向上
- ② 授業スタンダードチェックシートの自校化による授業の充実・改善

## 3 成果と次年度に向けて

### (1) 成果について

- ① 会津若松市立城北小学校 (パイロット校Ⅱ)
  - ・ 目的を明確にしたペアやグループでの伝え合い、話し合い、双方向的な教え合いを大切にして指導してきたことにより、子どもどうしのアドバイスが活発に行われ、考えが広まったり、深まったりした。
  - ・ ペアや少人数での話し合い、教え合いが必要となるタイミングを見極めながら取り入れてきたことにより、目的を意識した双方向の学び合いをさせることができた。
  - ・ 子どもの言葉に耳を傾け、問い返すことで、考えた理由(根拠)を話の視点にすることができたり、別な子に言い直し(再生)をさせたりすることで、大事なこと

を共有しながら学ばせることができた。

- ・ 意識調査で、「みんなに聞いてもらいたいから話したい」、「みんなが話を聞いてくれる」と、答えた子どもが増えた。
- ② 会津若松市立第一中学校（パイロット校Ⅰ）
- ・ 「タテ持ち」については、教員同士が授業の進捗について確認できたり、定期テストの問題を検討して改良できたりした。
  - ・ 「授業スタンダード」については、リーフレットに記載されている「ペアやグループでの話し合い」や「まとめ・振り返り」を重点項目とした現職教育を推進し、思考力・表現力の育成ができた。アンケート調査の結果からも、教員の意識が高まり、生徒の学習意欲がさらに高まる結果となった。
  - ・ 互見授業を充実させることができた。互見授業は、校長、教頭、研修主任、推進教師、教科の教員が参加するように計画したが、教科外の教員も積極的に参加し、授業参観と事後研究会が行われた。他教科の授業を参観した教員が、自分の授業の指導に生かす姿が見られるようになった。
- ③ 会津若松市立第一中学校区全体として
- ・ 中学校の定期テストの学習期間に合わせて、小・中共通の「メディアコントロール」の願いを家庭に配付し実践した。会津若松市立第一中学校区で共通の「メディアコントロール」の取り組みができた。
  - ・ 小・中学校の代表者が秋田県東成瀬村への研修視察を行い、各校の研究実践の参考にした。

(2) 次年度に向けて

- ① 会津若松市立城北小学校（パイロット校Ⅱ）
- ・ 授業において、話し合いをコーディネートすることは意識できてきたが、児童と児童の意見や考えをつなぐことへ転換できるように、より具体的な手立てや働きかけを工夫する必要がある。
  - ・ 授業についての打ち合せ不足があった。授業の役割を事前に十分に伝えられなかったり、担任の考えや思いをくみとれなかったりしたことがあった。
- ② 会津若松市立第一中学校（パイロット校Ⅰ）
- ・ 「タテ持ち」のさらなる有効活用を検討していく。
  - ・ 「授業スタンダード」について、さらに熟考し、教員自身が自分のものとし、十分に使いこなせるようにしていきたい。
- ③ 若松第一中学校区全体として
- ・ 「小中連携の具体的共通実践の充実」について、9年間を見通した「話し方・聴き方」の指導を段階的に継続していく必要がある。
  - ・ 会津若松市立第一中学校区での共通事項に関する協議や情報交換を行う機会が少なかった。各校における「話し方・聴き方」についての成果や課題を話し合う場をもつようにしていきたい。